

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www.15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

明けましておめでとうございます。会員の皆様、健やかなお正月をお迎えのことと存じます。まもなく平成の時代が終わり、新たな元号に変わり、新天皇が即位される歴史的な年となります。緩やかに移ろいでいく日本の美しい四季と共に、今年も会員の皆様が豊かな時を刻み、充実した生活を営まれますよう心から祈念しております。☆現職校長会との結束強化をさて、昨年の総会で承認された会



東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

創造性こそ、組織の生命線
—共に生きる「空気感」を大切に—

則の全面改正は、本会にとって画期的な出来事でした。今年はその実現と組織の強化に向けた大転換の初年度です。9月に結成されたプロジェクトチームは、10月早々から各校種の現職校長会を訪ね、理解と連携強化に向けた実質的な歩みを始めました。特に、本会の存在すら知らない現職の校長先生方への本会の周知と結束は最重要課題であり、今後の組織存続の生命線です。同時に、改正された会則第6条は会員確保への競争原理と各支部間のネットワーク

ク化が進みます。本部も支部と心を一つにして会員と準会員が信頼と期待を寄せる組織の活性化と豊かな環境づくりに邁進いたします。☆実った「会員が主役」の東京大会 去る10月に開催された第47回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会東京大会は、多くの会員の参加のもと成功裡に終わりました。各関係団体からの大変なお力添えに心から感謝申し上げます。さて、研究協議題は、〈本部と支部との一体化〉と〈関係

諸団体との連携〉の二つを提案しました。その共通認識は、〈将来に向かって退職校長会の活性化をどう図っていくか、その方策を探る〉でした。特に、長きに渡り、現職校長会との連携、支援、協力を強め、全員加入に努力されている他県の具体的な取り組みは参考になりました。これを機に、本会が「誰のための退職校長会か」を改めて考えつつ、真摯に本会の将来を創造していきたいと思えます。☆共に生きる「空気感」を大切に

主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
- P2 全国連合退職校長会 第47回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会東京大会
- P3 プロジェクトチームの発足とその役割
- P4 平成三十年度第二回会員研修会報告
「生き生き人生元気の出る集い」
一 苔玉作りと指の体操で元気になろう—
- P5 平成30年秋の叙勲受章会員
高齢者叙勲受章会員
- P6 支部だより
- P8 物故者、湯島の動静、編集後記

年末から年始にかけ支部役員会をはじめ、忘年会、新年会、叙勲祝賀会等に招かれます。凛とした会員の皆様と接しながら心の質力の高まりを感じます。そこには、共に幸あれと生きる「玲瓏な空気感」と「豊かな人間関係」が伝わります。ある会場の玄関で「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」—井上ひさし—と書かれた扁額を小学生がじっと見ていました。教育改革真つただ中、この子の将来に幸あれと祈ったのでした。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**全国連合退職校長会
第47回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会東京大会**

標記の大会が去る10月18日(木)～19日(金)に東京都文京区お茶の水にあるホテル東京ガーデンパレスを会場に開催された。

一都九県の代表が集まるこの大会は会場地輪番で十年に一度の運営の役割が回って来る。

東京都退職校長会は昨年度より準備に入り、42支部と会員一人一人の協力を得て組織をあげての準備を進めた。多田会長の『会員が主役、おもてなしの心で手づくりの大会にしよう』という合言葉のもと長い準備日程をこなした。その甲斐あって大会も大盛況で他県からの代表34名に加え、大会に学ぼうとする東京からの参加者も70名を超え全体で100名余の大きな大会となった。

以下に大会の概要を記す。

□日程 一日目(10月18日)

一・開会式 14時～14時30分
進行 大会実行委員

・開会のことば
宇津木順一(本会副会長)

神奈川県連合退職校長会会長

齋藤 隆士様



開会式



協議会

- ・国歌斉唱
- ・主催者あいさつ
関東甲信越地区退職校長会連絡協議会会長・東京都退職校長会会長 多田 丈夫
- ・来賓あいさつ
東京都教育委員会教育長 中井 敬三様
東京都文京区区长 成澤 廣修様
全国連合退職校長会会長 入子 祐三様
東京都公立中学校長会会長 小澤 雅人様
- ・来賓紹介
- 二・研究協議 14時40分～17時
協議題「絆を深め、伸びゆく

退職校長会を目指して「生き甲斐づくりに貢献する事業の在り方」

・協議題説明
大会実行委員 桑原利夫
(本会副会長)

要旨＝退職校長会の役割の一つは退職後の生き甲斐づくりに貢献し、都県及び地域の教育振興に寄与することである。そのため、内にあることは、本部と支部組織との一体化の促進、外にあることは、関係諸団体との一層の連携を図ることが事業の推進に欠かせない。この二つは本部が組織的、機能的に活動を展開していく上の重要な方策である。これらの課題にどのように向かい、どのような取組を行っているのか、そして課題は何か、

といった各都県の実情に沿った取組についての具体的な報告をお願いする。

・各都県発表(以下順次報告された。)

神奈川県大久保重則様、山梨県須田清様、栃木県木村茂夫様、長野県金井健様、埼玉県足助啓子様、千葉県川村絹慧様、茨城県梅田征夫様、群馬県駒倉秀一様、新潟県保科博昭様、東京都 桑原利夫

・協議 司会 大会実行委員 桑原利夫

・まとめ 全国連合退職校長会 会長 入子祐三様

要旨＝十都県から特色ある報告がされた。司会者の協議進行が上手く質疑が引き出され充実した協議会になった。発表を通して、地域の特色を生かした活動を展開する大切さが共通理解された。当面の課題は山積している。教員の働き方改革、新学習指導要領の実施を見据えて教職員の指導、運営体制の充実推進や教員以外の人材活用と業務改善、チーム学校・コミュニティースクール構想の実現等への支援が必要。各都県の取り組みをお願いする次第である。



基調講演

・閉会のことば
 三・写真撮影
 各県代表を中心に記念撮影
 四・懇親会
 18時45分～20時45分
 各県からの代表を囲んで80名余の交流会となった。
 □日程 二日目(10月19日)
 一・基調講演 10時～11時30分
 演題 「東京五輪を契機として学校教育に期待すること」
 講師 前東京都教育庁教育監 東京女子体育大学教授 出張 吉訓先生
 要旨Ⅱ・「白い鳩が窓の外に飛んだのを見て先生がテレビをつけてくれた」と、出張先生ご自身が小学二年の時に体験された東京オリンピックを振り返りつつ2020年のオリンピック・パラリンピックの意義を語られる。

・1964年の東京大会の学校教育での活動は、オリンピックク国際親善に尽くす心情を養い、公德心を養う、等にあった。
 ・2020東京大会を子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、良いところを更に伸ばし、弱みを克服する取組を推進し、子供たちの心と体と人生の糧となるような掛け替えのないレガシーを残す。
 ・重点的に育成する五つの資質は、ボランティアアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚。
 ・これらの教育活動はすでに平成28年度から展開されている。次代を背負う子供たちの成長につなげたい。
 二・閉会式 12時50分～13時
 ・主催者あいさつ
 東京都退職校長会会長 多田 丈夫
 次回開催地あいさつ
 神奈川県連合退職校長会 会長 齋藤 隆士様
 ・閉会のことば
 大会実行委員 大久保正巳 (文責 梅津通郎)

会長報告ープロジェクトチームの発足とその役割

1. 現職校長会組織への働きかけ

去る9月20日、本部内に「会員増強促進プロジェクト・チーム」を発足させた。主たる役割は、①東京都退職校長会の存在を周知、②会則の紹介と周知、③魅力ある本会の活動の紹介、④本会に未加入の退職校長への入会促進等4つの課題の任を負う。チームは、本会の将来への盤石な組織づくりの意志を各種の現職校長会並びに関係団体に伝える司令塔となる。

委嘱された本部役員と力量豊かな各校種代表の11名は、以下の通りである。○印は、校種別責任者。(敬称略)
 ・本部
 会長 長
 多田 丈夫 (八王子支部)
 副会長
 宇津木順一 (西多摩支部)
 総務部長
 林 和明 (世田谷支部)
 小学校チーム
 ○桐谷 澄男 (千葉南部支部)
 寺崎 千秋 (練馬支部)

桑原利夫 (江東支部)

・中学校チーム

○今井 重夫 (神奈川支部)

前田 烈 (千葉中部支部)

壺内 明 (江東支部)

・高校チーム

○佐治 恒孝 (神奈川支部)

天沼 昭夫 (埼玉支部)

結成については、去る10月29日の支部長会に報告した。各チームは校種別現職校長会への表敬訪問を開始する。10月26日には、桐谷委員と会長が小学校長会事務局を訪問、10月30日には、天沼委員が高等学校校長会の幹事会に出席、11月6日には、今井委員を中心に中学校長会役員会を訪問し、周知活動がスタートした。現職校長会との連携・強化をスケジュール化することで本会の理解と絆が一層深まり、必ずや全員加入への道筋が加速化されるはずである。

2. 支部間のネットワーク化に向けて

次に、新しい会則第6条の2

項により、全ての会員が支部長の許可さえあれば、他支部の活動にも参加できることとなった。つまり、どこでも誰でも42支部の支部活動に交流できる門戸が開かれたのである。この各支部間のネットワーク化の実現により、支部相互のダイナミックな活動と豊かな居場所づくりに拍車がかかる。同時に、各支部間の会員確保にも競争原理が働く。この横軸のネットワーク化は、今までにない交流と競争の原理により各支部を刺激し、支部結束への新たな組織づくりへのイニシアティブも秘めている。この意識改革に早く取り組むことで組織の安定性と活発化が約束され、全体として本会の会員増強の飛躍的伸展が期待できると確信する。重責と期待を担ったプロジェクトチーム（PT）の新たな仕事は始まったばかりである。改めて、この度の組織の大改革の鍵は、組織をリードする「PT」と会員の理解と結束と行動力にあると信じている。



平成三十年度第二回会員研修会報告
「生き生き人生元気の出る集い」

生涯学習部

―苔玉作りと指の体操で元気になろう―

○期日 平成30年11月22日(木)

○会場 鈴木日退連共同ビル

三階

○会費 一人五百円(材料費)

〔講師紹介〕

「苔玉作り」 稲川君江先生

千葉西部支部所属・園芸クラ

ブ所属・荒川シルバー大学相

談役

「指の体操と認知症予防」

鶴巻 武先生

北多摩西支部所属・東大和市

介護予防リーダー

○研修

園芸クラブのご協力で、苔玉作りに必要な材料を周到に準備していただき、苔玉作りの研修が行われました。



初めに、講師の稲川先生から

実際に苔玉を作りながらのお話がありました。また、園芸クラ

ブ委員長の天野先生が作成した

苔玉作りの映像での詳しい説明

で大変よくわかりました。

いよいよ苔玉作りの作業が始

まりました。多くの参加者に

とっては、初めての体験で苦勞

していたようですが、生き生き

と活動している姿が印象的でした。

最後に完

成した苔玉

を前に全員

の集合写真

を撮りました。

次

の研修

では、講師

の鶴巻先生

から、プリ



ントを中心に認知症についての概念・研究の現況・予防等のご講演がありました。その中で、大規模研究から明らかにされた

つある認知症予防効果として、

次の点が指摘されました。(1)知

的活動(2)運動性(3)食生活(4)社交

性(5)医療性

今後、65才以上の高齢者の1/4

が認知症になるとの話には大変

驚きました。

次に、指先体操が脳を活性化

させるといふ話の後、具体的に

指の運動を体験しました。最後

に、質疑応答を行って研修が終

了しました。

指先を使つての活動が脳の活

性化を促し、結果として生き生

き人生につながるのではないかと

感じました。



平成30年 秋の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計13名（敬称略）

瑞宝小綬章 2名

池田 芳和（練馬）

岩澤 邦明（神奈川）

瑞宝双光章 11名

阿部 勳（板橋）

桐井 幸雄（西多摩）

黒澤 功（練馬）

鈴木 治子（調布）

岩切 玲子（千葉西）

遠藤 國雄（埼玉）

深田 洋子（神奈川）

上原 利視（神奈川）

高野 榮一（神奈川）

日野 禎三（神奈川）

保岡 孝之（神奈川）

高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計5名（敬称略）

（平成30年12月8日まで支部より届出があった方々）

瑞宝双光章

上山洋一郎（北多摩西）

亀山恵之介（八王子）

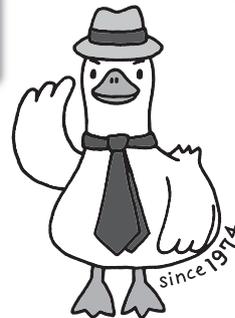
金田 可久（北多摩中）

中溝 忠男（千葉西）

峯岸 和永（武蔵野・三鷹）

新登場

No.1 アフラックは
がん保険・医療保険
契約件数 No.1
平成28年版「インシュアランス生命保険統計号」



●契約年齢●
0歳～
満85歳
まで

がんを含む

病気や
ケガの
備えに

ちゃんと応える
医療保険

EVER

心配な
「がん」の
備えに

新 生きるための
がん保険 Days

■募集代理店（アフラックは代理店制度を採用しております）

三泉トラスト保険サービス株式会社

☎ 0120-357-212

FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

◎商品およびサービスの詳細は「契約概要」等をご覧ください。

（引受保険会社）

「生きる」を創る。

Aflac

アフラック

東京第一法人営業部

〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル19階

Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広告課-2017-0005-1705004 1月16日

支部だより

会員間の交流を!!

葛飾支部長 佐藤 晴雄

葛飾支部の主な活動は、年度の総会及び懇親会で会員が顔を合わせる場となっています。

この総会が多くの会員が顔を合わせる機会となります。

総会時以外で会員が集まって交流しているのは、①「ゴルフクラブ」と②「史跡めぐり」の活動のみです。

以前には多数あったクラブも発足当時のメンバーが高齢化し、だんだん活動することが少なくなりグループ解散となり今ではゴルフクラブのみとなっています。

同一メンバーのみの活動はある程度の期間で解散となるようです。メンバーがあとから加入してこないと存続できないという事です。新しいメンバーが加わるようなくみにする必要があると思います。

史跡めぐりでは、世話人の方が熱心に準備、計画を立て、それぞれの回毎に、都合のつく方や興味のあるテーマ等で工夫して計画を進めているのでその内容により参加メンバーの入れ替わりがありますが、いつも一定の人数の参加があり長続きしています。クラブ活動になると同様な興味・関心を持った人の集まりとなり人数が限られたグループとなるのでメンバーが少なくなったりすると長く続かない場合もあります。クラブに新しいメンバーを入れ、新しい構成で活動を続けられるとよいと思っています。

退職校長会が総会と役員会と会費集めだけでは大変困ります。総会に参加し、史跡めぐりやクラブなどの同好会に参加し、会員間の交流を深め、更に会員間お互いの親密さを増していきたいと思っています。

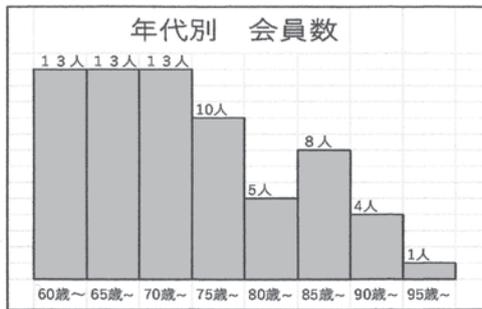
江戸川支部の今

江戸川支部長 奥村 信吾

本支部は会員数六十七名で平均年齢は約七十六歳です。都の東端に位置し江戸川を挟み千葉県と接しており所謂B会員が多く、新会則による新会員の動向に期待と不安を持っています。

会員の年齢別構成はグラフの通りです。会員の高齢化と入会者の減少は他支部と同様ですが、例年、新規入会者数は支部別の順位で上位に入っており、勧誘活動の成果と自負しております。

次に、主な事業は
・ 五月の総会と懇親会
・ 十月の研修会（今年は「食事と運動」）



・ 十一月の旅行会（今年はバス旅行）
・ 一月の新年懇親会

（他に囲碁を楽しむ会二回）独自性に欠けるのが難点です。

《今年の「旅行会」の紹介》
区が運用する一泊二日の上州の紅葉巡りのバス旅行でした。バスの発着が区内で利便性が良く区民には割引もあるので支部の旅行に活用しました。

好天にも恵まれ、参加者からは「今だから・ここだけ」の団欒には時を忘れ良き時代の職員旅行を彷彿とさせられました。最後に支部の喫緊の課題は

・ 新会員の獲得(新会則の下で)
・ 魅力ある事業の運営と創設
・ 役員候補者の発掘等です。

互助と親睦を中心に据え「過去は過去、今が未来への第一歩」と模索の続く本支部の今です。



魅力ある作品展と郷土巡り
 狛江支部長 松崎 正勝

例年定期総会を五月に開催するのに合わせて、同じ時期に作品展も実施しています。これは、会員の交流の場として話題が豊かになり、また来賓の方にも両方参加できると考えるためです。市民センターで行っているので一般市民の方も自由に鑑賞できます。感想では、毎年楽しみにしているとのこと。

作品の種類は多岐に亘っています。能面を中央に配置し、書写、水彩画、木工、手芸等を飾ります。今年で十回目、レイアウト、表示等、美術、書の堪能な方が中心になって行います。

写真は、制作者と役員です。シヨーカーズの中に飾り、二週間見られます。次に郷土巡りについて。この活動は数十年に亘って継続中です。市内を始め近隣の各市を大



部分巡りました。最近実施した二箇所について紹介します。二十七年度は、明治学院、二十九年度は泰明小学校で各々由緒ある学校です。

明治学院は、開国直後、宣教師へボンが開設し多くの人材を育て日本の近代教育の礎を築きました。また歴史的建築物が保存されています。創立一五〇周年を迎えました。(平成二十五年)

泰明小学校は会員の井上孝先生の出身校で六年生当時は東京大空襲に見舞われた様子を語ってもらいました。

創立百三十九年で藤村等著名人を多く輩出しました。



東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談
 どんなに些細と思われることでも
 お気軽に

ご葬儀
 寝台自動車、火葬場
 式場、供花・枕花の
 お手配

**ご法事、
 葬儀後の
 お手続き**

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
 年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎0120-849544 をご利用ください。

(平成30年12月現在)

物故者		謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます		氏名		年月日		支部名		校種		年齢		名簿頁	
小林	耕一	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
土井	正光	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
前田	美知子	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
矢田	元夫	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
池田	瀨彌	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
村山	美春	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
宮沢	春好	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
松山	雄一	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9	30	9
小野	眞澄	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8
山口	和治	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8
河合	信夫	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8	30	8
鈴木	恒雄	30	7	30	7	30	7	30	7	30	7	30	7	30	7
小林	孝夫	30	6	30	6	30	6	30	6	30	6	30	6	30	6
内野	仁之	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
吉田	輝道	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
嵯峨	悦子	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
篠山	隆	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
神山	敏夫	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
大窪	教海	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
中村	眞二	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
古川	新	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10	30	10
等々力	肇	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11
大南	英明	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11
櫻井	喜久雄	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11
柴田	徹	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11
岸田	多津子	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11
森脇	洋二	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11
木寺	慧舟	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11	30	11
土井	良英一	30	12	30	12	30	12	30	12	30	12	30	12	30	12



湯島の動静

30	29	28	24	23	22	21	18	16	15	9	8	7	19	17	14	12	11	10	5	4	3	27	22	21	13	12	7	6	5					
広報部会	（於東京ガーデンパレス）	新年懇親会	会員増強プロジェクト	福利厚生部会	人材バンク地区別協議会	企画調整部会	支部長会	生涯学習部会	広報部会・総務部会	正副会長会・企画委員会（合同）	企画委員会・新年会	企画委員会（旧会報部会）	福利厚生部会	1月	総務部会	人材バンク	会報部会	企画委員会・企画調整部会	生涯学習部会	会員増強プロジェクト	合同委員会	福利厚生部会・社会保険対策	全連退との懇談会（於全連退）	12月	企画委員会	第二回会員研修会	会計部会	企画調整部会	会員増強プロジェクト	会報部会	福利厚生部会・企画委員会	生涯学習部会	11月	5

編集後記

新年あけましておめでとうございませう。

昨秋の全国連合退職校長会の一都九県からなる関東ブロックの東京大会は大きな事業でした。多田会長が巻頭言でも触れていきますように「会員が主役」の素晴らしい大会でした。お客様を迎えることで東京大会は大きな関心事であり、すでに前号の巻頭言で苗村副会長も「おもてなしの心を持つての大会」を強調されておりました。その大会報告が本号のトップ記事です。

そしてこの新年よりいよいよ新会則の施行です。そのリード役に立つプロジェクトチームの記事もスタートしました。尚、本号も8ページ立てで応募コーナーをお休みしました。お許しください。

最後に悲しいお知らせです。会報部担当として奮闘されていた苗村崇倫副会長がこの6日に急逝されました。本号の編集後記担当でもありました。残念です。お仕事に敬意を表しながらご冥福をお祈りしたいと思います。（梅津通郎）